



鉄のふしぎ? 博物館

■29

母親に連れられて『鉄のふしぎ博物館』を見学に来る子ども達の中にはすばらしい子どももいます。「おっちゃん、この黒い石は隕鉄かな?」子どもも「持ち上げてみたら」私。「これ重たいわ!隕鉄やで!」子ども。「その隕鉄はアルゼンチンへ大昔に(4000~6000年前)落ちて来たもので、

画像はカラーと交換しています。

『スーパー小学生』



カンボ・デル・シエロ (8.6キログラム)

その地域では「空から大きな火の玉が落ちて来た」という伝承があったそうです。1576年にスペインの探検隊によって発見されたカンボ・デル・シエロ隕鉄です。もちろん、隕鉄が落ちて来た大昔にアルゼンチンと言う国は無かったのですが、隕石は砕けて、ばらばらになりましたが、拾い集められた隕鉄は150トもあったと言います。展示しているものは

衣川製鎖工業・衣川良介社長

カンボ・デル・シエロ隕鉄の分析値

鉄	ニッケル	ゲルマニウム	ガリウム	イリジウム
Fe %	Ni %	Ge ppm	Ga ppm	Ir ppm
92.5	6.62	392	90	3.2



隕鉄のオブジェ (小さなかけら、5-15ミリ、10個で6グラム)

8・6キログラムですが、その横にある小さなかけらも同じ隕鉄です。丸い磁石につけて遊ぶと綺麗なオブリジェが出来ますよ。隕石コーナーの隣は、結晶を展示している棚です。六角柱の水晶、どの面も五角形の黄鉄鉱(パイライト)、金色のサイコロ黄鉄鉱、正三角形が8ヶ(正八面体)の磁鉄鉱と緑色のホタル石。「金色の四角いサイコロはなんですか?」「おっちゃん、削って作ったので出来上がったものですか?」「子ども、自然に出来上がったものですよ。」「私、高温の熱水(ねっすい)が泥の中を流れたら、熱水中の黄鉄鉱の成分が小さなサイコロの形で結晶してゆきま

続くと、少しずつ大きくなっていきます。熱水の温度が下がると、泥が固まり結晶の成長もそこで止まり、石の中に金色のサイコロが出来上がっているのです。これはスペインで産出したものですが、五角形の黄鉄鉱は山梨県で産出したものがあります。積極的に質問を繰り返す子どもは小学4年生です。「この子は石や宇宙が大好きです。私なんかは、子どもの話についていきません」母親。この小学生的興味は隕石のコーナーと結晶の棚。その間を何度も何度も往復しています。来館から1時間半ほどが過ぎ、間もなくお昼になり、母に急かされ、

てシブシブ帰り支度。「おっちゃんあ、恐竜が絶滅したのは大きな隕石が宇宙から落ちて来たからや。6500万年前に、メキシコのユカタン半島へ落ちたんや。その時地球が大火事になって、その黒煙で太陽が隠れてしまっって寒くなり植物が枯れて、えさが無くなって死んでしまうたんや」子ども。「ぼく、詳しいな!」又勉強したらおっちゃんに教えてな!」そう言うって別れたのですが、こんなに詳しい小学生に驚きを感じ、いい加減な説明はできない、そう思いました。隕鉄は鉄とニッケルの合金が主ですが、地殻にはほとんど存在しないイリジウム(0.001ppm)をたくさん含んでいます。